

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児のデイサービス「杉の子」		
○保護者評価実施期間	令和7年12月23日		～ 令和8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和7年12月23日		～ 令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・環境	学校の敷地内にあり、特別支援学校の宿泊棟を借りているためバリアフリーで部屋数も多く、個々の目的に応じて対応しやすい。学校の園庭も目の前にあり、遊具や自転車なども借りることができるため、晴れた日には外遊びや自転車に乗る練習などが行える。学校の先生が事業所まで送迎していただくため、送迎の際などに学校での様子を聞くようにしている。 学校のバスに乗る利用児の預かり、バス停までの送迎も行っている。	敷地内の環境には恵まれているが、周囲に地域資源が少ないので、新しい地域資源を発掘し地域での活動なども今後増やしていきたい。
2	・情報共有	バス利用のため送迎に來られない保護者のために日々の連絡ノートで様子を報告し、保護者からも家庭での様子などを伺っている。 職員と毎日申し送りの時間を利用して情報共有をしている。休んだ職員のために申し送りノートを使用している。 年4回ほど、「杉の子」だよりを発行し、活動や支援の様子を保護者にお伝えしている。 相談員を通して他事業所との情報共有や会議を行っている。	毎日の申し送りでその都度職員が気が付いたことを伝えることを意識していく。
3	・多様な活動プログラム	毎日の「はじまりの会」やダンス、掃除、活動、外遊びなど一日の活動プログラムを作成して行っている。 「はじまりの会」ではその日の当番を決め、進行を行っている。 季節に応じた行事や活動内容を考えて行っている。 保護者も参加しての年1回のお楽しみ会(卒業生を送る会)を開催している。 同法人内の事業所との交流会や卒業旅行などを行っている。	職員でその都度、問題点を洗い出し、プログラムの見直しを行っている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門職による支援	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士などの専門職員がいない。	人材確保に向けた取り組みや、外部研修への参加をとして職員の研鑽に励む。
2	・卒業後の移行支援	移行支援先や就労支援先との関係や情報に乏しく、保護者へ十分な説明ができないため相談に乗ることが難しい。	自立支援協議会への参加や、今後の移行支援等を通して他事業所の理解を深めるよう努める。
3			